7. 日露関係に関する世論調査

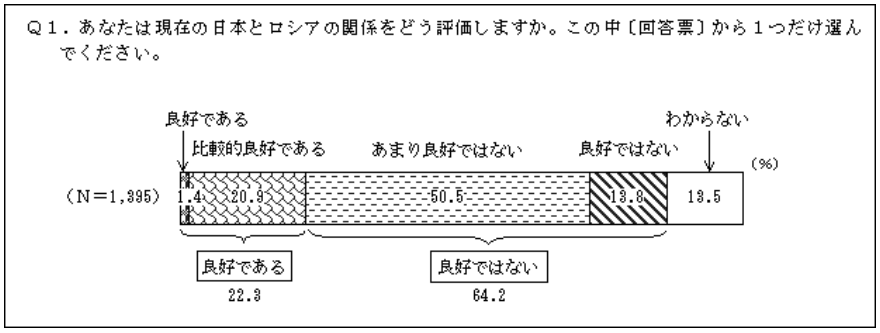
1.日本における日露関係に関する意識調査

1.1. 調査方法[1]

1.1.1．調査の目的日露関係に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
1.1.2．調査項目日露関係に関する意識
1.1.3．調査対象
（1）母集団全国 20 歳以上の男女
（2）標本数 2,000 人
（3）抽出方法層化二段無作為抽出法
1.1.4．調査時期平成 13 年 2 月 9 日～12 日
1.1.5．調査方法調査員による個別面接聴取法
1.1.6．　調査実施委託機関社団法人　中央調査社
1.1.7．回収結果
（1）有効回収数（率）1,395（69.8％）
（2）調査不能数（率）605（30.3％）
　　＊ 不能内訳
　　転居 30（1.5％）
　　長期不在 53（2.7％）
　　一時不在 240（12.0％）
　　住所不明 15（0.8％）
　　拒否 243（12.2％）
　　その他（病気など）24（1.2％）

1.2. 調査結果[2]

1.2.1. 現在の日本とロシアの関係
『良好である』22％、『良好ではない』64％

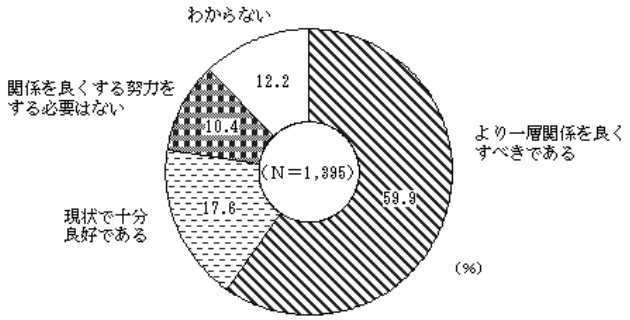


[1] 外務省ホームページ（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/chosa01/index.html）。
[2] 外務省ホームページ（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/chosa01/kekka.html#1）。

1.2.2．今後の日露関係のあり方

「より一層関係を良くするべき」が 6 割

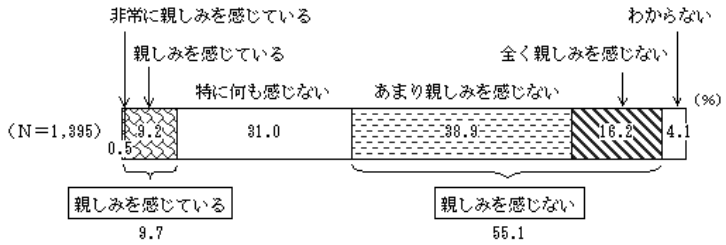
Ｑ２．日本とロシアの関係は今後どうあるべきだと思いますか。この中〔回答票〕から１つだけ選んでください。



1.2.3．ロシアに対する親しみ

『親しみを感じている』は 10％

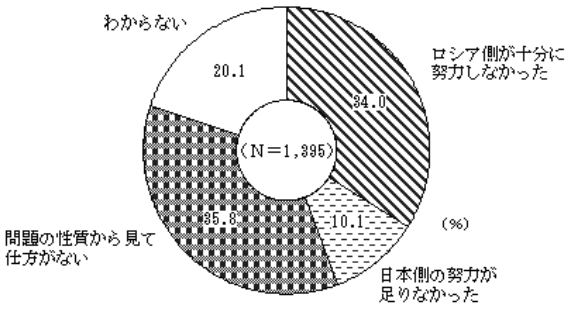
Ｑ３．あなたは、ロシアに対してどの程度、親しみを感じていますか。この中〔回答票〕から１つだけ選んでください。



1.2.4．平和条約未締結についての意識

「ロシア側の努力不足」34％、「問題の性質から見て仕方がない」36％

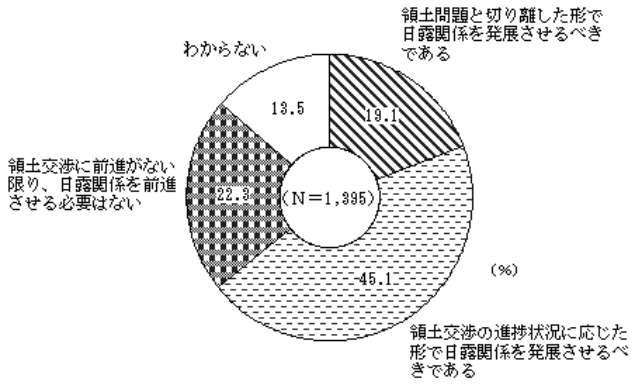
Ｑ４．１９９７年、エリツィン大統領と橋本総理との会談で、２０００年までに平和条約を締結するため全力を尽くすとのクラスノヤルスク合意が達成されました。しかし、残念ながら今日に至るまで平和条約は締結されていません。あなたは、この結果をどう受け止めますか。この中〔回答票〕から１つだけお答えください。



1.2.5．日露関係と領土問題

「交渉の進捗状況に応じて」が45％

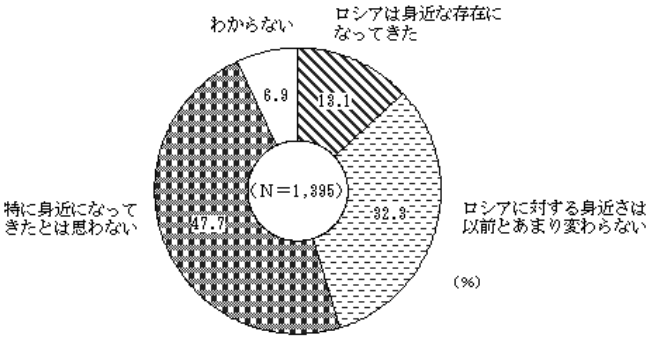
Ｑ５．今後、日露関係を発展させるうえで、領土問題をどのように考えますか。この中〔回答票〕から１つだけ選んでください。



1.2.6．ロシアは身近な存在になってきたか

「特に身近になってきたとは思わない」が48％

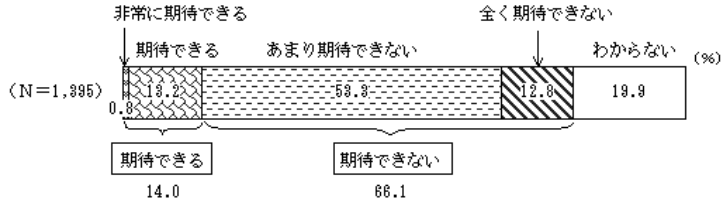
Ｑ６．近年、首脳レベルを含め日露両国政府の要人の往来が増えています。そのような中で、あなたにとってロシアは身近な存在になりつつありますか。この中〔回答票〕から１つだけお答えください。



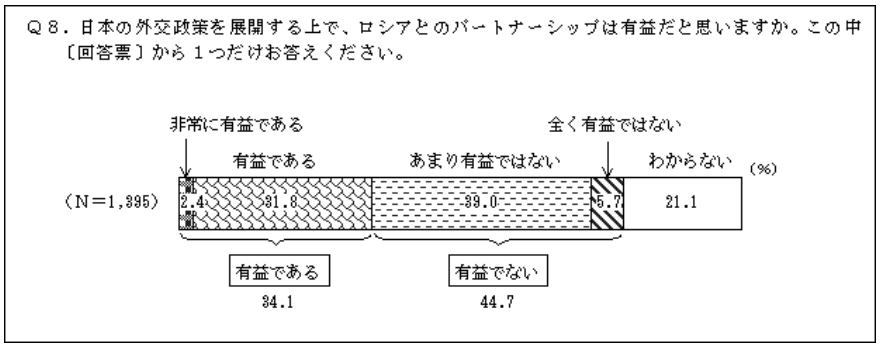
1.2.7．プーチン新政権への期待

『期待できる』14％、『期待できない』66％

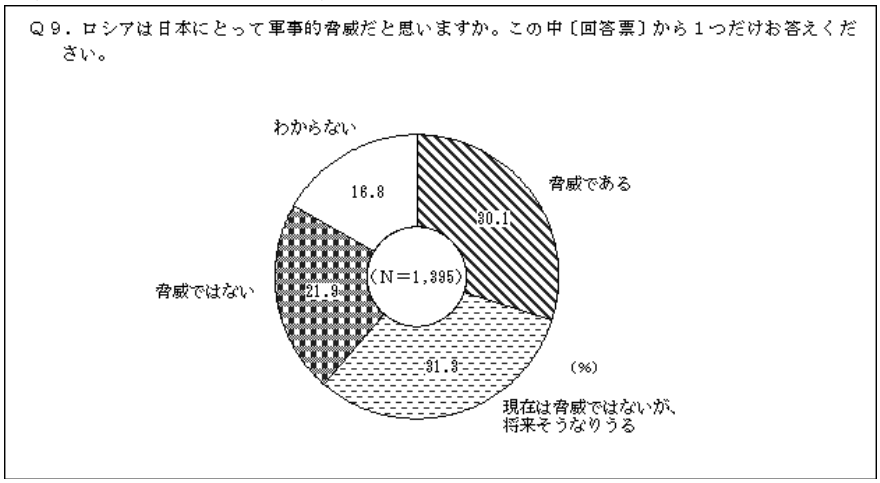
Ｑ７．日露関係の発展に向けて、２０００年５月に発足したプーチン新政権は期待できると思いますか。この中〔回答票〕から１つだけお答えください。



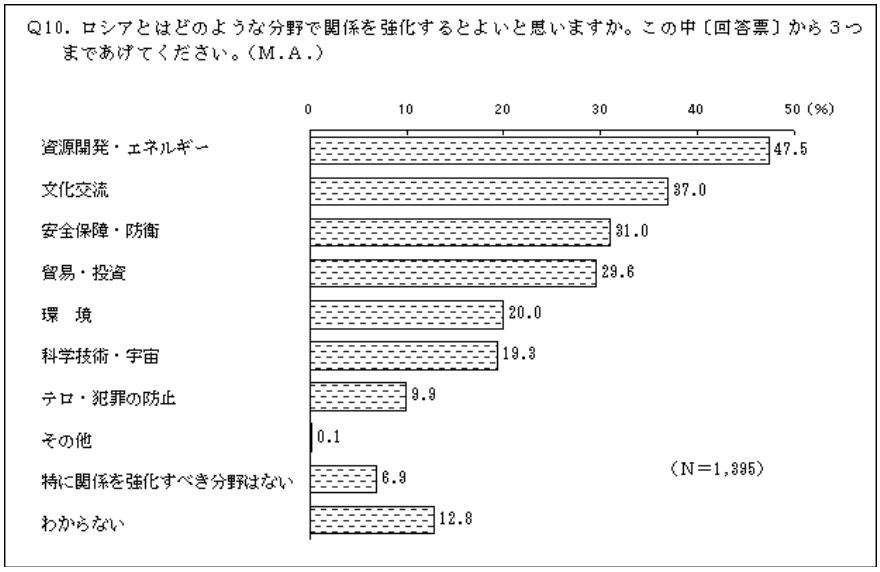
1.2.8．ロシアとのパートナーシップは有益か
『有益である』34％



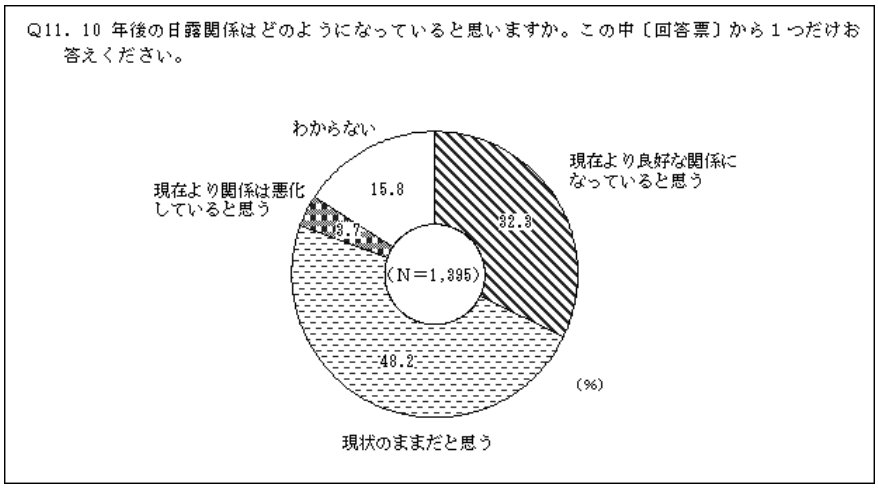
1.2.9．ロシアは日本にとって軍事的脅威か
「脅威である」30％、「現在は脅威ではないが、将来そうなりうる」31％



1.2.10．ロシアとの関係を強化すべき分野
「資源開発・エネルギー」48％、「文化交流」37％が上位



1.2.11．10 年後の日露関係
「現在より良好」32％、「現状のまま」48％



2. ロシアにおける対日世論調査[3]

2.1. 概要

平成 16 年 9 月、ロシアにおける対日世論調査を行ったところ、主要ポイントは以下のとおり。なお、本件世論調査は 2001 年 3 月に続いて実施したものであり、調査結果の信頼度は 95％、サンプル・エラーは±4.1％。

2.2. 結果概観

本件調査においては、37％の者が日本が好きと回答し、日本が嫌いと回答した者（3％）を大幅に上回った。国別でみると、日本を好きと回答した者の比率は、仏、独に次ぎ、米と同率の 3 位である。また、32％の者が日本を信頼できると回答した。

前回調査との比較では、信頼度は前回とほぼ同率（前回は 34％）であるが、日本が好きと回答した者は、前回の 45％から低下している。また、日本に関心を有するとした回答が 48％から 40％に低下し、全く関心がないとした回答が 27％から 40％に増加した。

日露関係については、89％（前回 94％）が重要であると認識し、63％（前回 61％）が現在の関係を良好であると評価している。関係を評価すべき分野としては、特に外交･安保及び科学技術を挙げる回答者が多かった。日本は、軍事的脅威とは考えられておらず（41％）、しかし、脅威になりうる（34％）との見方がある。また、モスクワ市・州の住民は、前回（41％）同様、日本が軍事的脅威ではないと考えている傾向が最も強い（46％）。ただし、ハバロフスク地方及びサハリンでは脅威と考える住民が多く、特にハバロフスク地方では、「脅威」または「脅威となりうる」との回答があわせて 69％となった。

領土問題が存在することについては、ロシア人の多く（67％）が知っている。交渉による領土問題解決につき 39％の国民が理解を示すものの、48％の国民は、四島は現在も今後もロシアに帰属すると考えている。

「ロシアにおける日本文化フェスティバル―2003」は、ロシア国民に広く（36％）認知された。

日本のイメージは、先進技術超大国、伝統文化豊かな社会。日本人のイメージは勤勉。

[3] 外務省ホームページ（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/chosa02/index.html）

2.3. 各論

数字は、全回答者のパーセンテージであり、主要設問、主要回答のみを記載（括弧内は前回 2001 年 3 月の数値）。

2.3.1. 対日関心

日本への関心を示すロシア人は、前回（2001 年 3 月）に比べ低下（48％→40％）。「関心なし」は増加（27％→40％）。関心度が高いのは、30-50 歳代で高学歴、高収入のグループ。日本に対する関心の高い分野は、産業・技術、歴史・伝統文化、自然・風土・観光。

日本に関する主要な情報源は、前回同様、全国版のテレビ。6 割以上が日本に魅力を感じつつも、「旅行したい」は 2 割。主に経済的理由による。

§関心の有無（問 1）
関心を有する
40％　（48％）
全く関心がない
40％　（27％）

§関心の分野（問 2）
産業技術
25％　（35％）
歴史・伝統文化
24％　（27％）
自然・風土・観光
16％　（20％）
料理
14％　（前回、この選択肢なし）
ファッション・風俗・道徳
14％　（17％）

§日本情報に接する頻度（問 3）
月数回以上
29％　（42％）
年数回以下
59％　（46％）

§日本に関する情報源（問 4）
全国版のテレビ
69％　（87％）
全国版の新聞
15％　（19％）
全国版のラジオ
12％　（20％）

§訪日歴（問 6）
訪日歴あり
1％　（ 1％）
親戚が訪日
4％　（ 3％）

§日本の魅力、訪日の希望（問 7）　（前回、この設問なし）
魅力があり、訪日したい　23％
魅力があるが訪日できない　40％
魅力がなく、訪日希望なし　31％

§日本の魅力（問 8）　（前回、この設問なし）
神社仏閣・茶道・花道等歴史・伝統文化
35％
先進的科学技術及び製品　22％
自然景観　22％
エキゾチックな雰囲気　19％

§訪日しない理由（問 9）　（前回、この設問なし）
資金がない　54％

2.3.2. 対日親近感

日本は親近感において、仏（25％）、独（17％）に次ぎ、米国と同率の第 3 位（10％）。

§日本が好きか（問 10）
好き
37％　（45％）
部分的に好きで部分的に嫌い
24％　（24％）
嫌い
3％　（ 2％）
無関心
30％　（24％）

§親近感を持つ国（問 11）
フランス
25％　（19％）
ドイツ
17％　（14％）
日本
10％　（11％）
米国
10％　（12％）
中国
4％　（ 5％）

2.3.3. 信頼度

日本を信頼できると考える者は 3 人に 1 人。特に 18 歳-30 歳代の高歴の人に多い。

§信頼度（問 12）
信頼できる
32％　（34％）
できない
32％　（29％）

§信頼の理由（問 13）
長い交流の歴史
11％　（ 9％）
共通の利益
10％　（13％）
日本人の国民性
8％　（ 9％）

§信頼できない理由（問 14）
日本人の国民性
13％　（10％）

2.3.4. 日本・日本人のイメージ

日本のイメージは、先進技術超大国、伝統文化豊かな社会。日本人のイメージは、勤勉。

§日本の国家体制は、いずれに近いか（問 15）
立憲君主国
25％　（前回、この選択肢なし）
民主主義国
17％　（36％）
大統領制
11％　（前回、この選択肢なし）

§日本社会のイメージ（問 16）
先進技術超大国
41％　（51％）
伝統文化豊かな社会
31％　（30％）

§日本人の性格（問 17）
勤勉
68％　（75％）
狡猾
9％　（ 8％）
名誉を重んじる
6％　（ 7％）
集団主義
5％　（ 4％）

§日本人とロシア人の国民性（問 18）　（前回、この設問なし）
似ている　30％
似ていない　62％

2.3.5. 日露関係

9 割以上が日露関係を重要と認識。6 割以上が現在の関係を良好であると評価。

「日本は軍事的脅威ではない」とする見方は、「脅威である」との見方を大きく上回る（それぞれ 41％、13％）。しかし、「将来脅威となる可能性」を挙げる者は 34％。ハバロフスク地方やサハリンでは警戒感が強い。

関係を強化すべき分野では、外交・安保が第 1 位（40％）。

§日露関係の重要性（問 19）
絶対に重要
31％　（31％）
重要
58％　（63％）
重要でない
3％　（ 2％）
全く重要でない
1％　（ 0％）

§日露関係の評価（問 20）
とても良好
2％　（ 1％）
良好
61％　（60％）
悪い
8％　（11％）
非常に悪い
0％　（ 0％）

§協力関係を強化すべき分野（問 21）
外交・安保
40％　（34％）
科学技術
23％　（25％）
貿易・投資
19％　（25％）
文化交流
5％　（ 5％）

§日本の軍事的脅威度（問 22）
脅威でない
41％　（42％）
将来脅威となりうる
34％　（35％）
脅威である
13％　（12％）

2.3.6. 領土問題・平和条約問題

領土問題の存在について 67％が知っている。半数近くが北方四島はロシア領と主張。特に極東地域（65％）やサハリン（84％）でこの傾向が目立つ。一方、領土問題を両国の合意により解決すべきとの立場（39％）は、18 歳-30 歳代の若い世代に多い。

§平和条約が結ばれていない事実（問 28）
知っている
33％　（38％）
知らない
63％　（58％）

§四島帰属に関する交渉（問 29）
知っている
67％　（82％）
知らない
29％　（15％）

§この問題についての両国の立場（問 30）
双方とも知っている
38％　（44％）
双方とも知らない
15％　（17％）
露側主張のみ知っている
4％　（ 5％）
日本側主張のみ知っている
2％　（ 5％）

§四島帰属問題に関する考え方（問 31）
現在も今後もロシアに帰属
48％　　（48％）
両国が相互に合意すべき
39％　　（42％）
日本に属すべき確かな根拠があり日本に属すべき
3％　　（ 3％）
その他
1％　　（ 0％）

2.3.7. 文化

「ロシアにおける日本文化フェスティバル-2003」は、ロシア国民に広く（36％）認知された。

§「ロシアにおける日本文化フェスティバル-2003」（問 32）　（前回、この設問なし）
知っている　13％
聞いたことがある　23％

§日露文化交流の評価（問 33）　（前回、この設問なし）
活発　33％
不活発　36％

§関心のある日本文化　（前回、この設問なし）
生活文化（華道・茶道等）　40％
武道　38％

2.4. 調査概要

実施機関：世論基金
実施時期：2004 年 9 月 9-29 日
実施地域及び対象者数
モスクワ市・州（600 人）、中央欧州部（920 人）、ウラル・シベリア（600 人）、極東（900 人）、サハリン（600 人）、合計 3,620 人（18 歳以上）
実施形式：調査員によるインタビュー
調査の信頼度：調査結果の信頼度は 95％。サンプル・エラーは±4.1％。